

# りんご生育情報(10月号)

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-8603

令和5年10月18日発行

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 気象の推移

9月15日から10月15日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。気温は、9月末までは平年より高い日が続きましたが、10月に入ると平年並みの気温に落ち着いています。また、10月6日に登米市に暴風警報が発表され、最大瞬間風速が25.5m/sを観測し(アメダス地点:米山)、一部の園地では落果がみられました。

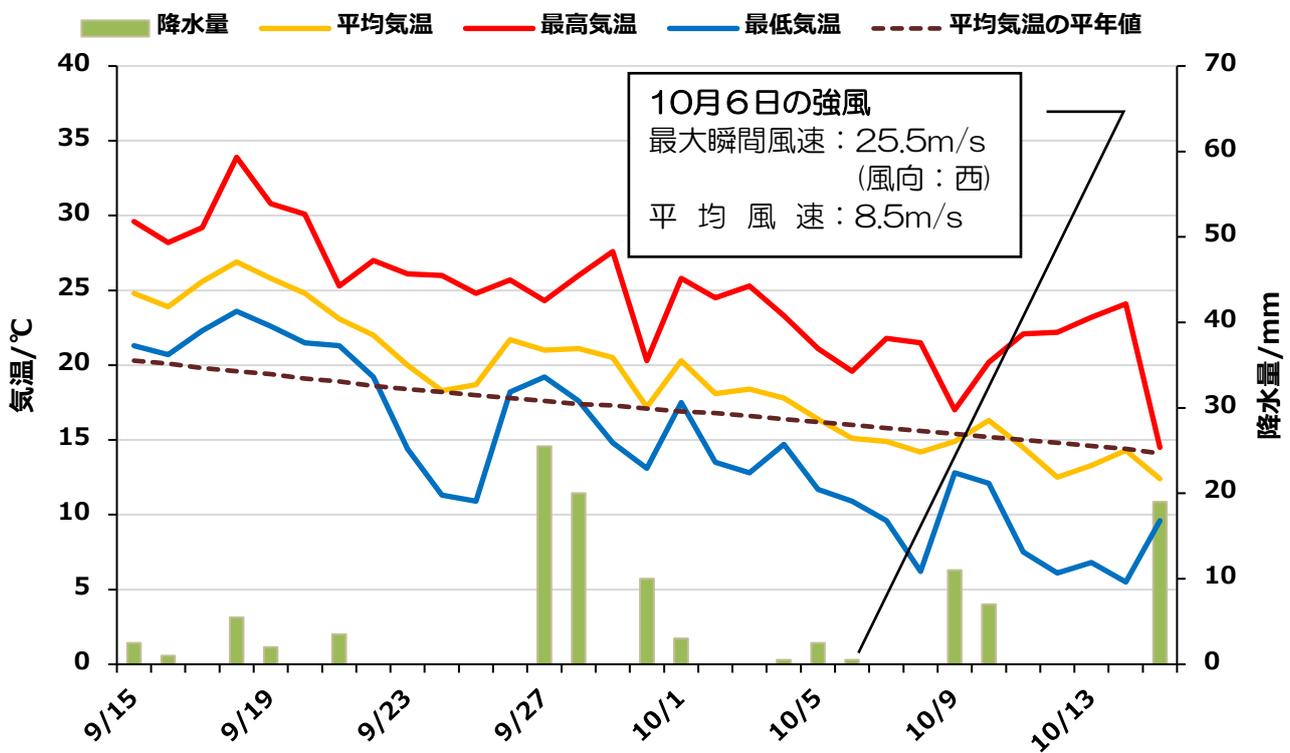


図1 9月15日から10月15日の気温・降水量の推移(アメダス地点:米山)

10月12日に仙台管区気象台が発表した早期天候情報(東北地方)によると、10月18日頃から向こう2週間の気温がかなり高くなる可能性があるとのこと(5日間平均気温平年差+1.9℃以上)。

## 2. 果実肥大状況

10月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、平年と比較して、タテ径101%、ヨコ径103%と平年並み程度で推移しています。

表1 果実肥大調査結果(mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	78.4	87.4
平年値	77.3	84.9
平年比	101%	103%
(参考)ジョイト樹	77.5	90.8

※東和町錦織の測定値。ジョイト樹は中田町川欠の測定値。





### 3. 強風対策について

10月6日に発生した強風により、落果や倒木がみられた場合は、下記の対策の実施をお願いします。

- ・落果して土壌に触れた果実は、果汁原料用等には利用しないで適切に処分します。
- ・倒木した場合は、健全な根を切らないようにできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定します。枝裂けした場合は、針金、ボルト等で結合し、傷口に塗布剤を塗ります。

### 4. 「ふじ」の着色管理について

「ふじ」の着色管理の適期です。作業が遅れないよう計画的に実施しましょう。

#### 🍂 葉つみ

- ・「ふじ」は収穫30～40日前から開始します。
- ・葉つみは収穫までに2回程度に分けて実施します。

1回目：果実に直接ついた葉を中心に除去

2回目：光が十分当たるように果実周囲の葉を除去

- ・葉つみが早すぎたり、強すぎたりすると糖度の上昇が妨げられ、着色が不良になるうえ食味を低下させるので、注意しましょう。

#### 🍂 玉まわし

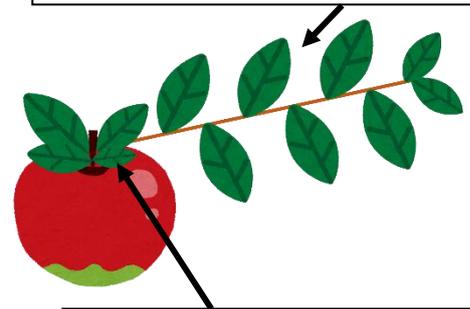
- ・果実が30%程度着色しだしたら1回目を実施し、その後葉つみと合わせて2回目を行うとよいでしょう。

- ・日焼け果の発生を助長しないよう、果実温の高いときに実施しましょう。

#### 🍂 反射シートの利用

- ・反射シートは収穫前30日ごろから敷きます。
- ・日焼けの発生を助長しないよう、反射シートは最初の10日程度は樹間に敷き、その後樹冠内に移動する方法が望ましい。
- ・着色が進んでも味が伴わない場合が多いので十分味をのせてから収穫しましょう。

副梢葉・新梢葉はできるだけとらない



果そう葉を中心に日陰になっている部分のみを葉つみする

### 5. 除草剤の秋季処理について

収穫終了後～落葉前に除草剤を処理することで、翌年の6月上旬ころまで雑草を抑えることができます。田植え作業等で春先の作業が多忙な方は、秋期処理をすることで作業分散させることができます。

#### 🍂 スギナ、ギシギシなどの多年生雑草

⇒吸収移行型（商品名例：ラウンドアップマックスロード）を選択

#### 🍂 ハコベ、メヒシバなどの1年生雑草

⇒接触型（商品名例：バスタ液剤）を選択

※秋期処理(収穫後散布)は、翌年の農薬使用回数にカウントされるので注意してください。

※冬期に地上部がほとんど生育していない雑草に対しては効果が劣るので、これらが多いほ場では春夏期の雑草防除を主体としましょう。

🍏 秋の農作業安全月間 🍏 ～徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策～

